

2020年11月26日
国際機関日本アセアンセンター

**日・ASEAN初の海洋プラスチックごみ問題学生共同プロジェクトに24名選抜：
ノーベル物理学賞受賞者 東京大学 梶田隆章教授・九州大学 磯辺篤彦教授 指導
「未来のリーダー達による国際海洋プラスチックごみに関する日ASEAN協力宣言」始動**



国際機関日本アセアンセンター（所在地：港区、事務総長：藤田正孝 以下、センター）は、今年度、日本とASEAN¹加盟国の国際海洋プラスチックごみ問題について、学生イニシアティブの宣言の採択・発表を行う初の試みであるプロジェクト「未来のリーダー達による国際海洋プラスチックごみに関する日ASEAN協力宣言」を実施します。

この程、11月14日（土）、ノーベル物理学賞受賞者である東京大学 梶田隆章教授（2015年「ニュートリノ振動の発見」）をお迎えした第一回目のセッションがオンラインにて開催され、日本およびASEAN加盟国より選出された24名の大学生および大学院生が参加しました。セッションを通じて、国際海洋プラスチックごみに対する現状を把握し、知識・問題意識を深めた学生たちは、それぞれの専門分野から未来を見据えて活発にディスカッションを繰り広げました。

応募総数約60名から厳正なる審査の結果選ばれた、日本（岡山県・静岡県・東京都・広島県・福島県・三重県・山口県）と、ASEAN加盟10カ国（ブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）を代表する24名の学生たちは、2021年3月16日開催予定の宣言式「未来のリーダー達による海洋プラスチックごみに関する日ASEAN協力宣言」にて関係省庁及び関係機関等を前に発表する共同宣言を、全3回にわたる準備セッションおよび特別講義を通じて起案します。準備セッションの指導には、国連・環境省・内閣府などでプロジェクトリーダーを務め、海洋プラスチックごみ研究を牽引する、九州大学 磯辺篤彦教授があたります。

¹ ASEAN(東南アジア諸国連合)とは、1967年に結成された地域協力機構。加盟10カ国（ブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）の総人口は約6億5千万人。

【スケジュール】

- 準備セッション1：2020年11月14日（土）
- 準備セッション2：2020年11月28日（土）
- 準備セッション3：2020年12月12日（土）
- 特別講義：2020年11月20日（土）
講師：環境省、JICA、ASEAN事務局、北九州市、
クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス
- 日ASEAN協力宣言式：2021年3月16日

第一回目のセッションでは、まず初めに、センター事務総長である藤田正孝が開会の挨拶を述べました。国際海洋プラスチックごみ問題は現在、海洋だけでなく社会経済にも影響を及ぼしていること、そして、同じ海を共有する日本とASEAN諸国は、未来への責任を果たすための共通課題としてこの問題に取り組んでいることに触れました。また、日ASEAN首脳会議においても、「インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）」に記載された4分野（海洋協力、連結性、国連SDGs、経済等の分野）のうち国際海洋プラスチック問題が重要視されていることに触れ、本プロジェクトはASEANリーダーたちからも期待されていると述べました。そして、研究フィールドや国籍が違う学生が集うことで、問題解決に向けて多角的なアプローチや価値観がもたされるだろうと期待をよせました。

東京大学 梶田教授は、ノーベル物理学賞受賞理由となったスーパーカミオカンデにおける『ニュートリノ研究』および『Kagra』についての研究の歴史を振り返りながら、拡大する国際的なネットワークに言及し、「研究者にとって、研究課題の理解と結果は最優先事項ではあるが、様々な国と地域から仲間が集まると、予想していなかったアイデアが生まれるため、国際的なコラボレーションは重要である。国際的なコラボレーションは、平和とよりよい未来の鍵となる。日ASEAN間の協業を楽しんでほしい」と述べました。そして最後に、「研究を続けているとあきらめなくなる時もあるが、あきらめないでほしい。重要な貢献ができると信じて自分の信念を貫いてほしい」と学生たちにエールを送りました。

九州大学 磯辺篤彦教授は、日々の暮らしで大量消費されるプラスチックが、河川を通じて日ASEANの海で漂流し、海洋生態系におよぼす影響が深刻化していることを、豊富なデータをもとに指摘しました。また、近年、急速に社会的関心が高まったことで、技術革新やイノベーションがおこり、先鋭的なシミュレーションやモニタリング、トレッキング技術を活用して海洋での浮遊量や漂流のメカニズムを科学的に証明できるようになったことを、現在研究室で行われているドローンとディープラーニングを駆使した実験の様子も交えて共有しました。

選抜された24名の学生の出身地および在籍大学名を添付資料にて記載しております。

学生へのご取材等をご検討いただけますよう、よろしく願いいたします。

<<国際機関日本アセアンセンター>> 正式名称：東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター

ASEAN10ヵ国政府と日本政府により1981年に設立。貿易・投資・観光・人物交流の4分野を軸に、ASEAN諸国から日本への輸出の促進、日本とASEAN諸国間の直接投資、観光及び人物交流の促進を通して、日本とASEAN諸国との関係促進に貢献する国際機関です。

<<本リリースについてのお問合せ>> 国際機関日本アセアンセンター 事務総長室・広報

東京都港区新橋 6-17-19 新御成門ビル 1F 電話：03-5402-8118 Fax：03-5402-8003 E-mail：toiawase_ga@asean.or.jp

<添付資料>

氏名	出身地	在籍大学	専攻
益田 明奈	三重県	京都大学大学院	環境マネジメント
屋嶋 悠河	福島県	東京工業大学 大学院理学院化学系	分析化学
奥泉 陶和	静岡県	岡山大学大学院	環境高分子材料学
坪井 昌宏	岡山県	香川大学大学院	環境生態機能学
内田 祐紀哉	山口県	九州大学	海洋環境
藤川 真智子	広島県	早稲田大学	創造理工学部環境資源工学科
山本 まりえ	東京都	東北大学大学院	公共政策・国際関係論
AMIRUDIN, Akhmad	インドネシア	東北大学大学院 (PhD)	Environmental Studies
BARTOCILLO, Aye Mee	フィリピン	北海道大学大学院 (PhD)	Natural History Science
CHANTHAVONG, Souphaphone	ラオス	東京大学大学院	Socio-Cultural Environmental Studies
CHUNG, Si Ying	シンガポール	慶応義塾大学大学院	System Design and Management
CORALES, Helen Valerie	フィリピン	九州大学大学院 (PhD)	Agriculture
LAMOONKIT, Jomphol	タイ	東京工業大学大学院	Transdisciplinary Science and Engineering
LAO, Chuunhong	カンボジア	北海道大学	Urban Planning
MOHD FAUZEE, Yasmin Nabilah	マレーシア	奈良先端科学技術 大学院大学 (PhD)	Applied Stress/Microbiology
NGUYEN, Thi Thanh Tra	ベトナム	九州大学大学院 (PhD)	Doctor of Laws
NURLATIFAH	インドネシア	熊本大学大学院	Environmental Chemistry
RAHMAD, Rafidah	ブルネイ	早稲田大学	Modern Mechanical Engineering
ROS, Bandos	カンボジア	広島大学大学院 (PhD)	Economics
SANTOSO, Shelvy	インドネシア	富山県立大学大学院	Environment and Civil Engineering
SETIAWAN, Fajar Ajie	インドネシア	神戸大学大学院 (PhD)	International Environmental Law
SOE, Aye Myint Myat	ミャンマー	北海道大学大学院 (PhD)	Environmental Science
TRAN, Tien	ベトナム	京都大学大学院	Environmental Management
TUN Thant Zin	ミャンマー	熊本大学大学院 (PhD)	Environmental Chemistry and Toxicology